
空きビル

ちほ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空きビル

【Nコード】

N5107C

【作者名】

ちほ

【あらすじ】

ある女の子がいた。名前は香住。幸せな家庭に生まれた女の子だったが悲劇が何度かおこる…。母親の死に自分の姿を消して…？

幸福な家庭だった。

長女の香住は優しい子。明るくて友達もすぐにたくさんできて、カリスマ的な存在だったと言えよう。香住は小さな頃から相手の考えることがわかり、すぐに「相手の場合になってみると……」と考えていた。

あんな出来事がなければこんな性格にはならなかっただろうに…。

2600年香住の母親香は洋輔と結婚した。デキ婚だったが。結婚して数か月して香住が生まれた。

初めての子供であったこともあり洋輔は生活費・養育費を、香は教育・家事にお互い力を入れた。そう、二年間ほどはそんな生活が続いていた。

幸せ過ぎていた。洋輔も香も力を入れすぎた。

悲劇は起きた。

「死にたい」

洋輔が仕事から帰ってくるなり言いだし

た。香は洋輔を見た。目が…目が生きている人の目とは思えないほど黒くゆがんでいた。「毎日仕事忙しくて疲れたんだよね。私

も頼りきってたところもあったよね。今日はもう寝なよ。香住には私から言うからさ。」洋輔は頷いて寝室へ向かった。香は座り

込んだ。今までの洋輔ならあんなこと言うはずがない。心配になった。明日病院に連れていこう。丁度明日は会社が休みの日だ。

「お父さんは？」

「お父さんは疲れちゃった

からもう寝ちゃったよ。香住も早く寝なよ。」

「はあい」

翌日

香は洋輔を連れて市民病院に連れてきた。

「ストレス性

のうつ病です。お薬を出しておきますので朝、昼、晩、寝る前に必ず飲んでください。また一週間後にきてください。」うつ病…。香の目に涙はなかった。香はその場にしゃがみこんだ。

十カ月後、奇跡が起きた。洋輔がまた以前のように元気になったのだ！洋輔はこの十カ月間影で支えてくれていた香の為に、本気で心配してくれている香住の為に、薬を欠かさず飲み、安静に過ごしてきた。念をおされて香と洋輔は病院にきた。

「奇跡です！以前のように表情も暗くないし、目もちゃんと正常だ。念のため残りの薬は全部飲んでください。もう病院にはこれなくて結構ですよ！」

やった！本当に洋輔が治った！これから幸せな家庭が………………。ドターン！香が倒れた！洋輔が急いで医師に診察してもらった。

「彼女もうつ病です。さつき倒れたのはめまいと睡眠不足のせいでしょう。お薬をだしておきます。」

俺が飲んでいる薬とほとんど同じだ！なんて思いながら二人で家に帰った。「ごめつ……………つ。治ったばかりなのに……………つ」

と、泣きながら言う香を洋輔はそっと抱いた。香住はもう寝ていた。一年後、長男大和が生まれた。香住四歳、大和零歳。四年後。香住小学校三年。大和四歳。悲劇は起きた。香が信仁という男と浮気をした。万引きもした。

洋輔はキレた……。

「そんなにここにるのがいやなら出ていってなくても構わない！」

香は言い返せなかった。香住は香に言った。

「あたしはお母さんの好きにすればいいと思う。お母さんの人生なんだからさ。お母さんが何をどう選ぼうとあたしは干渉しない。」なんて大人びたことをいうのだろう。でも香は理由を知っていた。だから香はただ‘ありがとう’としか言えなかった。

結局香は出ては行かなかった。

一年半後。香住もわずか五年生。大和もうすぐ一年生。ちょっとし

た出来事が起きた。香住が頭痛を理由によく早退してきたのだ。洋輔と香は嫌な予感がした。二人は香住を病院に連れていった。

「だいぶストレスが溜まっていますね。お薬を出しておきますね。」香は信仁と切れてなかった。香は香住の一件があった後から信仁に対して暴力的になった。それに頭にきた信仁は暴力を振ってしまった。香はよく鼻を折ったり、コート（服）に血を付けて帰ってきていた。

香が薬をたくさん飲んで二、三日間眠り続けることはよくあった。

四月の半ば頃香は薬をたくさん飲んで寝てしまった…。

香が眠って三日目。

香住と大和が行っている学校では『一年生を迎えるかい』が行なわれていた。二人は家に帰ってくるなり、別々の行動をとった。大和はゲーム、香住は香の様子を見に行った。なかは暗く、香は布団のなかで横になっていた。香住が香の顔を覗いてみると…！目は半開き、口からは血が一筋垂れていた。顔は冷たかったが、背中は何のしごく暖かかった。死因は脳内出血だった。

香住は中学一年の終わり、姿を消した。香住の姿はある古びた空きビルの一階にいた。ある男と一緒に…。そう、信仁だった！

香住は知っていた。香が脳内出血になったのは信仁に殴られたり蹴られたりの暴行を受けたためだった。

洋輔はそのことを知っていたが、あえて黙っていた…。

「ここで決着を付ける！」大の大人相手に女子中学生が勝てるはずがなかった。

「お母さんごめん。仇打てなかった…。大和、お父さん…大好きだったよ……」香住はその場に…倒れた……………。

香住の目には涙はなかった。優しい眼差しだけがただただ残った…。

……………。

（後書き）

洋輔は再婚をし、女の子を一人授かった。名前は香住…。再びサバ
イバルが始まった……！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5107c/>

空きビル

2010年10月16日11時42分発行